

東西条スマイルプラン～心に響く体験を生かした道德の時間の年間指導計画（第1学年）

テーマ：みんな なかよし

学校教育目標

◎豊かな心を持ち、たくましく生きぬく子どもを育成する

道德教育重点目標

- ◎ 進んで学ぶ子
- ◎ 命を大切にする子
- ◎ 手をつなぐ子

めざす1年生の子どもの姿

- 学校生活に慣れ、約束やきまりを守って集団生活を送る
- 友だちとなかよく助け合う
- よいと思ったことを進んで行う

道德の時間の重点内容項目

〈1-(1)節度ある生活〉・〈2-(1)礼儀〉・〈2-(2)思いやり・親切〉・〈2-(3)友情・協力〉・〈4-(1)公德心・規則尊重〉

● 重点内容項目の指導構想

学期	教科・特別活動など	生活科	道德の時間		常時活動
			ロング ユニット	ショート ユニット	
一 学 期	音楽 「てとてであいさつ」 図工 「えがおいっぱい」	がっこうとなかよし ○ 友だちとあくしゅ ○ 2年生と学校探検 ○ 自分たちで学校探検 ○ 先生とあくしゅ大作戦	2-(3) 2-(1) 2-(4)	きもちのいいいちにち 1-(1) 1-(1)	栽培活動（二人一人が咲かせよう・みんなで育てよう） ふれあいそうじ・ふれあいサーキット
		ひがしさいじょうと なかよし ○ 通学路をたんけんしよう ○ 東西条のおじいさん、おばあさんとなかよし ○ 「おじいさん、おばあさんとなかよしになる会」を開こう ○ 東西条のあきとなかよし ○ 「あきとなかよしパーティー」を開こう		みんななかよし 4-(2) 2-(2) 2-(1) 2-(3) 2-(2) 1-(3) 4-(4) 2-(3)	
二 学 期	特別活動 「創立記念発表会」 国語 「学校のことを教えてあげよう」 図工 「こいしやはっぱのへんしん」				
三 学 期	図工 「ようこそ1年生」	もうすぐ2ねんせい ○ 家の仕事にチャレンジしよう ○ 1年間を振り返ろう ○ 次の1年生となかよしになろう ○ 1年生を迎える準備をしよう	4-(2) 1-(2) 4-(3) 2-(4)	みんなのために 4-(1) 4-(1)	
				(太字が重点項目)	

第1学年2組 道徳学習指導案

なかよく たすけあう こころ

「くりのみ」【価値探求型】 2—(3) 信頼・友情

出典『小学どうとく生きる力2年』 大阪書籍（一部改作）

本時のねらい

友だちとともに、助け合っていこうとする心情を養う。

役割演技を取り入れて道徳的価値を実感させる授業

指導者 東広島市立東西条小学校 迫平 節子 (T₁)

富田 真理 (T₂)

1 主題設定の理由

◎ねらいとする価値

友情は、人間関係を営んでいく上で欠かすことのできない基本的なものである。よい友だち関係を築くには、お互いを認め合い、様々な学習活動や生活を通して、助け合い、理解し合い、信頼感や友情を育てる努力が必要である。

この時期の児童は、幼児期の自己中心性がまだかなり残っているため、他人の立場を認めたり、理解したりする等、他人の人格を尊重することはまだ難しい面がある。しかし、学校での規則的な生活や友だちとの遊びを通して、自己中心性が少しずつ減少し、友だちと一緒に取り組む喜びが分かりつつある時期でもある。そこでこの時期に、相手の気持ちを考えながら身近にいる友だちと仲良く活動し、助け合うことの大切さに気付くことが重要である。

◎心に響く資料

きつねとうさぎが食べ物を探しに行く。きつねは、どんぐりをたくさん見付け、腹一杯食べたのに「一つも見つからなかった」とうさぎにうそをつく。うさぎは自分が見付けた二つしかないくりの実を一つきつねにゆずる。きつねは、うさぎの優しさにふれ、涙をこぼすというお話である。

日常生活の中では、自分が苦しいときや大変なとき、友だちの立場や気持ちを考えずに自分だけいい目を見たいと思うことはよくあることである。そのため児童も容易に主人公であるきつねに共感し、自己を見つめることができる資料であると考えられる。また、うさぎの優しさに触れたきつねの気持ちに焦点を当てることによって、助け合いのすばらしさに気付くことができる。

◎価値の自覚を深める工夫

資料の提示については、場面絵や効果音を用いて、児童を物語の世界へと引き込んでいきたい。そして、展開前段のうさぎがきつねにくりの実を渡す場面では、感動的に両者の心の有り様を探ることができるよう、役割演技を取り入れる。くりとお面を使い、児童がうさぎ役ときつね役になり、二つしかないくりのみの一つをあげろうとするうさぎの友だちを思う優しさときつねがうさぎの思いやりの深さに感動して涙ぐむ心情を十分に味わわせたい。また、自分のことしか考えなかったことを反省するきつねの心をしっかりつかみ、自己を振り返るきっかけとしたい。

本時は、資料提示や役割演技をT・Tで行うことにより、児童の気持ちを一層資料の中に引き込ませ、価値に迫っていくことができるようにしたい。

◎児童の実態

本学級の児童は、一学期に比べ交友関係が広がってきている。しかし、自分が遊びたいから遊具を独り占めしたり、相手の話をよく聞かないためにけんかになったりすることがある。自分の思いだけを最優先して、トラブルを起こすこともたびたびである。また少しでも自分が有利な立場に立とうとしたがる傾向も数多く見かけられる。帰りの会で一日の反省をするとき、困ったことの発表は多いが、友だちに助けてもらったことやよくしてもらったことの発表は少ない。そこで、自分の生活を振り返ることにより、友だちによくしてもらったことに気付いたり、困っている身近な友だちを進んで助けたりすることができるようになれば、友だち関係をさらに楽しく深いものにしていくことになると思われる。

2 本時の指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点・教師の役割
導入	1 資料の登場人物や情景を想起する。 ○どんな音が聞こえてきましたか。 ・寒そうな風だな。 ・北風だ。	○効果音を使って冬の厳しさを実感させ、資料への興味づけを図る。また、登場人物のうさぎときつねが友だち関係であることを知らせ、道徳的価値への方向づけをする。 ・T ₁ 進行、T ₂ 効果音
展開前段	2 資料「くりのみ」を聞いて、話し合う。 ○森の中にどんぐりがたくさん落ちているのを見つけた時、きつねは、どんなことを思ったでしょう。 ・おなかいっぱい食べられるぞ。 ・やっと見付かった。これで助かった。 ○「だめなんです。なんにも見付かりませんでした」と言ったきつねは、どんな気持ちだったでしょう。 ・せっかく隠したんだから、うさぎさんにあげたくない。 ・あしたもちょっとずつ食べたい。 《うさぎがきつねにくりの実をさし出した場面の役割演技》 ◎「やっと、二つ見付けたのです。一つさしあげましょう」とくりのみをさし出すうさぎはどんなことを思っていたでしょう。また、きつねは涙を流しながらどんなことを考えたでしょう。 （うさぎ） （きつね） ・こまったな。 ・ありがとう。やさしいね。 ・かわいそうだから。 ・うそをついてごめんね。 ・ともだちだから。 ・隠しておいたどんぐりをあげるよ。	○場面絵や北風のBGMを用いて資料を提示する。登場人物をT ₁ とT ₂ が分担して劇をする。 ・T ₁ きつね役 T ₂ うさぎ役 ○食べ物になかなか見付からない状況の中で、やっとどんぐりを見付けることができた場面を動作化し、きつねの喜びに共感できるようにする。 ・T ₁ 発問 T ₂ 補助発問、個別指導 ○補助発問「きつねはどうして落ち葉で隠したんでしょう」をすることにより、「見付かりませんでした」と答えたきつねの気持ちをより深めたい。 ○場面絵を用いて、自分のことしか考えようとせず、友だちのうさぎにさえ、どんぐりをあげたくないと思っているきつねの気持ちに共感させる。 ・T ₁ 主発問、補助発問 T ₂ 板書、補助発問 ○二つしかないくりの実を一つあげようとする場面において、役割演技（児童がうさぎ役）を取り入れ、うさぎの友だちを思うやさしさに気付くことができるようにする。 ○役割演技（児童がきつね役）を取り入れ、うさぎのやさしさに感動し、自分のことしか考えなかったことを反省するきつねの心をしっかりつかませる。 ・T ₁ きつね役、主発問 T ₂ うさぎ役、板書
展開後段	3 今までの自分を振り返る。 ★☆☆きつねのように友だちがいてくれてよかったなと思ったことはありませんか。 ・ころんだ時、「だいじょうぶ」って友だちにいってもらった。ちょっと、痛いのを忘れた。	○友だちがいてくれてよかったなということを思い出し、自分の生活を振り返ることができるように、意図的指名や補助発問をする。 ・T ₁ 主発問、意図的指名 T ₂ 補助発問、板書
終末	4 歌を歌う。 ・友だちっていいな。	○「あしたも♡ともだち」の歌を歌い、余韻をもって終わるようにする。 ・T ₁ 伴奏 T ₂ 進行

○ 基本発問 ◎中心発問 ★今までの自分を見つめる発問 ☆これからの自分を見つめる発問

3 教師の評価の観点

- 友だちのことを考え、助け合っていこうという気持ちになることができたか。
- 役割演技は、価値を深めるために有効であったか。

4 児童の自己評価の観点

- ①友だちと助け合っていくことの大切さに気付き、一生懸命考えることができたか。
- ②進んで発表しようとしたか。
- ③友だちの考えを一生懸命聞くことができたか。

5 資料

くりのみ

ピューピューと、きたかぜのふい

ているはらっぱで、きつねは、**とも**

だちのうさぎにであいました。

「うさぎさん、うさぎさん。そんな

にいそいそどこへいくの。」

(と、きつねがききました。)

「おながすいて、たべものを見つけにいくところだよ。きつねさんはどこへいくの。」

(と、うさぎはいました。)

「わたしもたべものをさがしにいくところです。」

「たくさん見つかるといいですね。では、気をつけていっていらっ

しやい。」

(うさぎでわかれてしばらくくと、森の中に、どんぐりがたくさんおちていました。)

「たくさんどんぐりがおちている。わあい、どんぐりだ。」

(きつねは、よろこんではらっぱいたべました。)

「ああ、おながいっぱいになった。のりば、だれにも見つからない

ように、おちばでかくしておいっ。……さあ、かえろっ。」

かえるときゅうで、またさっきのうさぎにであいました。

「きつねさん、たべものは見つかった。」

原作では、「きつねが、うさぎに」となっているが、きつねとうさぎが友だちであることをおさえるために変更した。

(と、うさぎがききました。)

きつねは、きゅうにこまったかおをして、

「だめなんです。なんにも見つかりませんでした。」

(といました。)

「それはきのどくですね。」

(といって、うさぎは、しばらくかんがえていましたが、しなびた

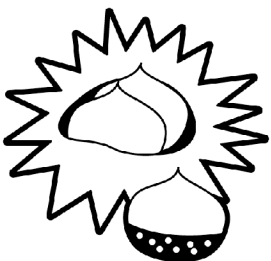
くりのみをとりだしました。)

「やっと、二つ見つけたのです。一つさしあげましょう。」

「えっ。」

(だされたくりのみを見ているうちに、きつねの目からなみだがおちてきました。)

劇で資料提示するため、地の文は動作で表現する。また、会話文においても友だち関係ということ強調するため語尾を変更した。さらに動作の難しいところを会話文で挿入した。



原作では、「しめた。」になっているが、劇で資料提示するので、きつねのどんぐりを見つけた喜びをあらわす言葉を加えた。

6 資料分析と板書

学習活動と 主な発問		資料場面	登場人物の心の動き		児童の意識の流れと板書計画	道徳的価値の 自覚化
資料を聞いて、話し合う。 ○森の中にどんぐりがたくさんおちているのを見付け、「しめた」といったきつねは、どんなことを思ったでしょう。		「しめた」きつねは、喜んで腹いっぱい食べました。残りば、だれにも見付からないように、落ち葉で隠しておきました。	きつね うれしいな。やっと食べ物が見付かって、よかった。	うさぎ 誰にも見付からないように、隠しておこう。	くりのみ ふゆのやま たべものがない きつねの絵 うさぎの絵 ともだち 森の絵 ・これはぼくのものだ。 ・だれにもみつかからないようにかくしておこう。 ・あしたまたたべよう。 ・二つしかないし、どうしよう。 ・きつねさんもおなかですいているだろうな。 ・ともだちだからあげよう。 ・あげるとたべものがなくなってしまう。 ・またさがすのはたいへんだ。 ・わけたくない。 ・なんにもみつかりませんでした。 くりの 実を渡す絵 きつね ・なんてやさしいんだ。 ・うそをついてごめんね。 ・かくしていたどんぐりをはんぶんあげよう。 なみだがおちてきました。	2 (3) 【信頼・友情】
○「だめなんです。なんにも見つかりませんでした」と言ったきつねは、どんな気持ちだったでしょう。		きつねは、きゅうに困った顔をして、	どんぐりがあったことは、黙っておこう。	見付からなかったのね。		黙っていよう。
◎「やっと、二つ見つけたのです。一つさしあげましょう」とうさぎに言われて、きつねはなみだをながしながらどんなことを考えたでしょう。		「えっ」出されたくりの実を見ているうちに、きつねの目から涙が落ちてきました。	ぼくはおなかいっぱい食べて、見付からなかったとうそをついたのに、うさぎさんはやさしいな。 隠しておいたどんぐりをわけてあげよう。	二つしかないの で、困ったな。 でも、きつねさんは食べ物が見付からなくて困っているの で、一つをあげよう。		うさぎのやさしさにふれ、友だちを思う気持ちの大切さに気付く。
○きつねさんのように友だちにやさしくしてもらったり、なかよく助け合ったりしたことはありませんか。そのとき、どんな気持ちがありましたか。			友だちはいいな。			